平成28年度 学校法人　産業技術学園　北海道エコ・動物自然専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果および改善方策

学校関係者評価員会実施日　：　平成28年7月8日　　14時～ 16 時

評価委員　：　佐藤翔太　　要害利江　　大場真哉　　山田裕一郎　　樋原均　　近藤幸司　　吉田俊介（欠席）

平成27年度自己点検自己評価（平成27年4月1日～平成28年3月31日）による

【理念・運営目標】	北海道エコ・動物自然専門学校は、、職業教育を行う高等教育機関として、職業人教育を通じて社会に貢献するミッションを持ち、3つの建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を通じ業界に直結した職業人の育成をするとともに、4つの信頼「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを目指している。 北海道恵庭市の環境を活かし「動物とともに学ぶ」をコンセプトにエコブランド(特色ある教育と強い就職)で学生の夢を叶え、業界のパイオニアを輩出する『動物・環境業界で道内No.1の専門職業人養成校』を目指す。
【組織目的】	北海道エコ・動物自然専門学校は、365日 「動物とともに学ぶ」 学校。動物と一緒に過ごす時間こそ学生の最大価値と考え、「人と動物がともに生きる社会」を実現できる」人材を養成する。 そのための教育システムの確立【きずなシステムを開発】し、「人と動物がともに生きる社会」を実現できる養成機関として、唯一の地位を確立する。
【運営方針】	日本国内の動物愛護・環境保全活動の推進を支える「人と動物がともに生きる社会を実現できる」人材養成を行う。 1.「動物とともに学ぶ」教育システムの確立。 2.「動物とともに学ぶ」学校コンテンツに共感してもらえるようにする。 3.教職員全員の情報共有。

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H27自己評価 【3段階評価】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価 （平均） 【3段階評価】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
1　教育理念・目的・育成人材像	教育指導要領 入学案内	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	本校を設置する学校法人は、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションとしている。共通の建学理念として、実学教育、人間教育、国際教育を掲げ、人材育成を行っている。本校では動物業界で活躍する「社会に信頼される心豊かな実践的職業人」の育成に努めている。		3.0	**3.0**	目的理念はしっかりしている。 組織目的に共感できる。 この数年の間に学校と地域の距離が近づいていると思う。顔の見える開かれた学校として今後も地域とのつながりを深めて欲しい。 学校施設も充実しており、より業界人を目指す学生にはよい育成施設になると思う。	より一層の地域連携を通して、恵庭でしかできない「人と動物がともに生きる社会を実現できる」人材育成を行う。
		1-2 学校の特色は何か	日本国内の動物愛護活動の推進を支える「人と動物がともに生きる社会を実現できる」人材養成を目指し動物とともに学ぶ教育システムを確立した。		2.8	**3.0**		
		1-3 学校の将来構想を抱いているか	学校の将来を学校運営面と組織づくり、そして教育力の向上の視点から捉え、常に5年先を見据えた五ヶ年計画を策定している。次年度より新たな5ヶ年計画に入るので、将来構想を見据え、今年度の自己点検をしっかり行いたい。		2.7	**2.8**		
2　学校運営	事業計画	2-4 運営方針は定められているか	全教職員が納得して学校運営に携わる環境づくりにより、学校・学科の教育成果向上と常に市場ニーズに対応した運営方針・事業計画を作成してきた。教職員全員での運営方針の共有と具体的行動目標の策定を行い行動目標まで明確化されている。運営方針の実現のため、部署間で問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行してきた。	文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底し、共感してもらうことの強化が必要。全教員が納得して学校運営に携わる環境作りを目指し、学校・学科の教育成果向上と常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。	2.8	**3.0**	きちんと計画されている。	学校運営の「見える化」を内外ともに推し進める。
		2-5 事業計画は定められているか	運営方針・事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決済を受け、承認を得る。①学校の事業計画は毎年3月初旬に研修を行い、全教職員へ周知徹底している。②事業計画を教職員が自律的に計画し決定し承認を得て全員で共有している。その上で職場での計画が実行に移されていく。計画遂行の確認のため、問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを徹底する。 現在では特に校舎の老朽化や施設整備が必要なため、計画的な収支計画・事業計画を作成し、毎年段階的に設備投資ができるよう、学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。	事業計画を教職員が自律的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。計画遂行の確認のため、問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを徹底していきたい。	3.0	**3.0**		
	事業計画（意思決定システム）	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	運営組織は事業計画に定める意思決定システムに準拠した組織体制を確保している。目標達成の為に、ひとり一人の教職員が、広報・教務・就職すべての業務において情報を共有している。	会議の進行ルールや議案発信と議事録配布・保管のルールを重視し、会議は成長する研修の場と位置付けている。会議では決定事項に対するアクションプランを明示し実践と修正、評価を効率的に行えるよう努める。	2.6	**2.8**	適切に運営されている。	
	就業規則	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	人事考課は、個人目標シートを作成し、職務規定に定める人事考課と対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務（例えば、入学式・卒業式担当、サークル担当、学生挨拶推進担当、清掃運動担当など）も過程を評価できるようプロセス評価を導入している。 また目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかの視点で立案し、評価も公平に行い、職員の職場に関するアンケートの実施により、理念・目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などを把握しており、今後も職場環境の改善にも着手していく。	3.0	**3.0**		
	事業計画（意思決定システム）意思決定システム）	2-8 意思決定システムは確立されているか	学園運営会議・学校全体会議・戦略会議と問題点を発見し解決するための会議があり、各会議で常に事業計画を踏まえ討議することで、目標志向性の高い組織運営を行っている。 朝礼・終礼・ツールボックスミーテイングを行い、日々の問題解決を迅速に行い、月1回のエコ全体会で情報を共有している。	会議毎に参加者は選抜され、その中で各リーダーに権限は委譲されており、教育成果向上のため人材育成視点も併せ持てる努力をしなければならない。	2.8	**3.0**		
	AS400/サイボウズシステム	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	本校では、学生・教職員の個人情報管理をAS400のシステムにより行っている。また、サイボウズによる学内コミュニケーションシステムや掲示板、稟議、出張、外勤のシステム等を管理している。	学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にブレがないようにシステム構築をしている。今後もこのシステムを運用する側のスキルアップに努めたい。	3.0	**3.0**		

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H27自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
3 教育活動	教育指導要領	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	常に業界との連携を通じ、業界の求める人材像を把握し、学科の教育内容との差異を調査している。業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。 学生サポート委員会を設置し、学生ひとり一人を大切にした教育システムの構築をした。また、指導からコーチングへ転換し寄り添いともに目標を目指す教育を目指した。		2.8	2.8	細やかな教育活動をされている。 学生・教員の笑顔、大きな声での挨拶が好印象である。 地域社会においてその地域大学や専門学校があるのは大きな魅力だと思う。 少子高齢化社会の中でも「知る」という知的好奇心を満たす移動動物園や各種講演会等地域の人が心豊かに暮らす上での取組が良い。 入学時から専門的な世界を意識させ、卒業してからは専門分野で生きていくことをもっとイメージさせると良い。 資格試験を全員合格できるようにカリキュラムを考察すべき。 人間が人間を育てる教育の上であらゆる分野からの教育活用をはじめ地域創生貢献をもとらえた教育活動はすばらしいと思う。	地域と連携し、恵庭でしかできない「人と動物がともに生きる社会を実現できる」人材育成を行うとともに、教員自らも地域連携を強め、教員個々の学習環境の整備を推し進める。
	教育指導要領	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	修業年限２年間を１年前期・後期、２年前期・後期の４つのステップに分けて、知識と経験を身につけるシステムを構築している。 今年度も教育課程編成委員の方々の助言をいただき教育課程表を見直し変更を実施した。		2.9	2.8		
	教育指導要領	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の特徴を生かし、モチベーションプログラム⇒ミッションプログラム⇒プロフェッショナルプログラムのステップに合致したカリキュラムを編成している。	地域の要望に沿って移動動物園や犬のマナー教室を開催し、学生と動物の感情的な関わりを通して、豊かな人間性を育む産学官協同教育を目指す。	2.9	3.0		
	教育指導要領	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	卒業時の目標に向けて、学年毎に適正に位置づけられているか、常に見直しを行っている。		2.9	2.8		
	教育指導要領	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか	キャリア教育については、入学前教育より実施し、キャリア教育ロードマップを作成させる等、自己肯定感を高めるポートフォリオや実習ノートの活用等の工夫を行っている。自己のキャリアデザインに沿った教育支援と援助を実施している。		2.9	3.0		
	授業調査/アンケート	3-15 授業評価の実施･評価体制はあるか	授業評価は、前期、後期に授業そのものに対する評価アンケートならびにヒヤリングを行っている。また、公開授業や研修授業の実施による問題点の発見等工夫をし、その内容について適切にフィードバックしている。		2.9	2.8		
	教育指導要項	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	業界で経験を積んだ卒業生の教員採用や、専任教員と第一線で活躍する講師との交流で常に高い水準で要件を備えた教員確保に努めている。		2.9	3.0		
	学生サポートハンドブック	3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	年2回の職業実践専門課程認定の教員研修会への参加を行い教員の資質向上に努めた。リーダーシップ、フォローシップ、フェローシップを発揮できる組織を目標に･きずな（絆）システム開発委員会を設置した。		2.8	3.0		
	教育指導要領	3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価については、進級卒業判定会議において学則、細則に定める教務規定に則り適正に評価している。		3.0	3.0		
	e-ランニングシステム紹介	3-19資格取得の指導体制はあるか	取得目標としている資格は、その業界で仕事をする上で重要な資格であることから、全員が資格取得できる体制づくりを目指している。	動物看護師20名受験19名合格	2.9	2.7		
4 教育成果	就職資料/学校案内	4-20 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3月末で求職者就職率が95.4%の就職内定率となった。また就職希望者率は、現在94.0%となっており、目標である「90%以上」は確保出来たが、更に高い目標を掲げ卒業する学生全員が就職希望となる努力をしている。	教務とキャリアセンターとの連携を、より一層強固にしていく。 その結果、毎年の目標である年度内での全員の就職内定を達成させ、学生個々に合わせた教育支援連携や、業界情報等の相互共有を企図する。 専門職就職９３％　他７％	2.5	2.4	とても高い就職内定率である。 就職内定率は高い数字であるが、学生本人が就職したい先に就職しているかという点については問題が残る。 就職率については内容がどういう意味合いなのかについてきちんと伝えることが信頼される学校として必要。 学資ローンの返済が可能な就職先（正規雇用）を選択するという学校側の考えは現実的なものと考える。 サポート体制がより充実しているので、学校外へもっとアピールすべき。 学生の積極性の差によるキャリアセンターの有効活用に問題があるため、もっと活用してもらえるよう見直しが必要。 実社会での対人間との会話を生かした実践カウンセリングの成果を知りたい。技術のみで心の無い会話での対人問題を重視するこが重要	教育効果をより向上させるために、自ら好奇心を持って積極的に学ぶアクティブラーニング教育を実践する。
	J-web紹介	4-21 資格取得率の向上が図られているか	早期より資格取得のための講座の受講や資格試験対策についての支援を行い、指導方法についても検証を行い改善を図っている。動物看護師学科においても資格の取得は高い合格率であるが課題も残る。		2.6	2.6		
	事業計画DO率	4-22 退学率の低減が図られているか	本校では事業計画に中退者０を目指す目標を掲げ、その対策に取り組んでいる。特に心理面では臨床心理士のサポートと学習面では、学習サポートセンターが支援を行っている。毎月「課題のある学生」リストを集約し、重い課題のある学生はカウンセリング記録をもとに関係者間で対応検討する体制をとっている。 DO（5名）　休学（2名）	教務とキャリアセンターの強化により、学生のなりたい姿の教育と就職が一致し、目標喪失などの防止のための対策を図る。	3.0	3.0		
	学校案内より卒業生紹介	4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	在校生の継続的採用を鑑み卒業生の就職先訪問を積極的に実施している。卒業生を中心とした「好きを仕事にした３０人の物語」により卒業生の活躍状況や業界の様子を在校生や入学前学生へも広く紹介している。卒業生の研究、受賞、活躍の状況については、現在その詳細把握にまでは至っていない。		2.5	2.6		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H27自己評価 【3段階評価】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価 （平均） 【3段階評価】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
5 学生支援	キャリアセンター資料	5-24 就職に関する体制は整備されているか	就職はキャリアセンターを中心に業界との連携のもと教職員一丸となってその支援にあたっている。就職は入学後より就職意識を高め、17か月前より就職対策を開始している。特にスーツ講座や模擬面接、セミナー、企業合同説明会、東京姉妹校合同企業説明会への参加等により就職の支援体制を行っている。就職後の卒業生からの講話等により就職の現況を伝える設定等も実施している。動物飼育を中心とした就職先については、正規雇用が少ない業界でもあることから技能・技術の価値を高め、職域の拡大を図っていく必要がある。		2.9	2.8	一番責任があるのは、我々雇用側だが、動物業界は採用条件（「ブラック企業」非正規雇用であること、社会保険が無いこと等）が存在する職場もあることから、その意味を学生にしっかり教えると共に最低賃金に満たない求人を断っておくことで業界の体質を変える努力も必要かと思う。	一人ひとりの学生状況に応じた事業、学費等の支援体制をさらに強化する。また奨学金返還の意識付け教育を強化する。
	キャリアサポーとハンドブック	5-25 学生相談に関する体制は整備されているか	本校ではクラス担任制を取っており、学生相談は担任、学科等複数の教員が対応できる体制をとっている。専任のカウンセラーを配置する他、教職員全員に、カウンセリング、コーチング技術の研修を受ける機会を持ち、学生支援を行う体制を確保している。		2.9	2.8		
	ファイナンシャルアドバイス資料/学生募集要項	5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	在校生の53％（941名）が日本学生支援機構の奨学金利用者であり公的支援制度への相談体制ができている。 各学科においても年に1回保護者会を実施し情報の告知と案内の徹底を図っている。また、家庭の状況に応じた相談も行っている。		2.9	2.8	奨学金の説明を充実すべき。 学生は金銭面でのイメージが捉えにくいのでマネー教育のサポートが必要。	
	教育指導要領	5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	健康診断をはじめとして学校保健法に規定するコンプライアンスは遵守しており、特に医療法人慶心会による健康管理体制により再検診や診察を確実に実施している。健康に関する啓蒙活動ならびに健康相談を医療法人慶心会が担っている。傷病、疾病に関しては近隣にある恵み野病院と連携をとっている。		3.0	3.0	支援体制は充実している。 おおいに奨学金の制度を活用して優秀な人材を社会へ送り出して欲しい	
	学生便覧（学友会）	5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか	学友会が中心となり課外活動としてのクラブ活動が活発に行われている。クラブ活動に関する運営は学友会資金により各クラブに運営費補助を適切に行っている。		3.0	3.0		
5 学生支援	学生寮紹介パンフ	5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	寮については男子寮1棟、女子寮1棟、男女共用寮2棟を有しており、地方からの学生にも対応できる体制となっている。寮には寮長が在駐し健康管理、生活指導を担っている。平成28年度新たに新寮を建設予定である。		3.0	3.0	卒業直後は夢の就職先ではなく、現実的な就職先が必要。	
	各保護者会資料	5-30 保護者と適切に連携しているか	各学科の保護者会は学年ごとで年１回以上開催している。 保護者会では学習面、就職面、国家試験、海外研修等の報告を行い保護者相談会を同時に開催し個別の問題解決にあたっている。また学科担任を通して保護者との連携は密にしている。	保護者会以外にも学校への意見集約による課題設定が必要である。	2.8	2.8	キャリアとして将来に夢を追いかけるための後押しも必要。そのための卒後セミナーや勉強会は誠実な取り組みである。	
	各卒後セミナー/勉強会	5-31 卒業生への支援体制はあるか	本校では同窓会を組織している。同窓会開催時には講演会を行う等卒後研修の機会を設けている。卒業生の再就職希望者が多いことからキャリアセンターの支援体制強化が必要である。			3.0	地方からくる学生も多いため保護者への適切な説明会を実施している点は評価できる。しかし説明会に参加していない保護者への対応に課題が残る。（資料、議事録送付等の工夫）	
6 教育環境	口頭説明	6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか				3.0	整った環境であると思う。 外国語教育に対する学生の需要状況がどうであるか。学校理念の国際教育を今後どのように実践するかが課題。	グローバル人材育成のための教育環境の開発を継続する。
	海外研修資料	6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	学外実習については、充分な教育体制を整備しており、学科ごとに企業と連携した実習が計画されている。全学科、動物の福祉に対応する道内唯一の学校として学内動物病院を開設した。学外実習については登別マリンパークニクスをはじめ札幌ドッグスクール等50カ所におよぶ研修施設において実践的な実習を実施している。 実習における成績評価は、実習の指導担当者によりその技能のレベルや人間力について評価している。実習前においては指導担当者と充分な協議を重ね受け入れについての合意と内容の承諾を受けて実施している。	海外研修の意義を見直した上で、各学科で共通してできる海外研修をプログラムを検討していく。国際教育の一環としての研修の意味を広義でとらえ、海外の大学や企業との協同研究等も考える必要がある。	2.9	3.0		
	教育指導要領	6-34 防災に対する体制は整備されているか	防火管理者をはじめとして環境安全衛生管理者、衛生管理者、環境管理者、安全管理者による管理体制を敷いている。年に1回消防本部、環境整備関連会社による防災訓練を実施。防災教育にも力を入れている。また学生、教職員ともに災害時の安否確認システムを各校で有し訓練を行ってている。防災、火災についてはその意識を高めることから訓練を実施し避難手順や方法を指示し実施している。また学生、教職員、講師へ、防災訓練の映像化（DVD）等も実施しており、防災の意識を高めている。AEDは各校舎設置しており、定期的な救急時における知識の習得と意識付け研修も行っている。		3.0	3.0		
7 学生の募集と受け入れ	学校案内より確認	7-35 学生募集活動は、適正に行われているか	学生募集活動は、専修各連の定める募集基準に則り、AOエントリーは6月から、出願は8月からその他の受験方法による出願は10月から受け付けている。 エコブランドを見える化し学生募集活動を展開してきたが、定員の確保に達しなかった。 入学者109名/入学定員160名	地域に根ざしたプロジェクトを構築し、学生の学びとともに地域創生を目指し、特に近隣の高校との連携ならびに近隣高校との信頼関係を深める。人と動物と地域をつなぎ、心が通う学びと地域創生を目指し、共感してもらうように伝えていく。	2.5	2.8	募集方法が良くないという問題ではなく、「動物業界では生活が厳しい」というイメージが浸透してしまっていることも原因の一つではないか。 学納金を保護者に対してわかりやすく変えたことは大変評価できる内容だと思う。	受験生にわかり易く学校の教育内容と実績を今以上に見える化する。特にWEB（スマートフォン・パソコン）での発信を強化する。
	学校案内より確認	7-36 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	エコブランドとして、動物とともに学び、動物業界への就職を叶え、独立開業によって業界を牽引する人材を育成する学校であることをホームページ等で紹介し情報発信のさらなる強化をした。また全国に365日動物とともに学べことができる学校が、北海道恵庭にある事を伝える努力をした。動物とのふれあい、仲間との協働、地域との連携から得る教育成果もホームページ等に掲載し「見える化」した。		2.5	2.9		
	教育指導要領/学校案内	7-37 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入学選考は募集要項、入学試験規定を定めこれを運用しており、合否についても入学選考規定に則る入学合格判定会議を実施し、公平、厳正に実施している。		3.0	3.0	設備が整った学校なのでその認知のための広報に更に努力すべき。	
	学生募集要領	7-38 学納金は妥当なものとなっているか	学納金は適正かつ妥当なものと考えており、その納付金額、方法に関する情報も適正に行っている。	①学納金の減免項目の整備　②奨学金延滞率の向上 学納金の減免項目の整備を行い、保護者にわかりやすく提示する。	2.9	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	自己点検	重点目標	H27自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
8.財務	財務資料 （口頭説明）	8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	キャシュフローの形態を重視し、収支バランスはとれており繰越収入超過金はない。設備投資も計画的に行われており負債における問題はない。	年度における減価償却費の割合が上昇しており、入学生数割合による財源の確保が課題となる。	2.5	2.6	適正であると思う。	継続的に計画的な環境の補修及び改修をすすめていく。
		8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	各学科での予算作成と予算執行がWEB上で行えるシステムにより見える化の徹底と管理ができており、より健全な学校運営ができるよう財務基盤を安定させる仕組みが確立している。計画的な収支計画・事業計画を作成し、毎年段階的に設備投資ができるよう、学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定に努めるには支出を削減するだけではなく学納金の回収率アップに重点を置かなければならない。今年度は前年を大きく上回る回収率となった。		2.9	3.0		
		8-41 財務について会計監査が適正に行われているか	書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓が出来ており、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、財務情報公開の体制整備も出来ている。		3.0	3.0		
		8-42 財務情報公開の体制整備はできているか	収支各項目の比率（広報費等学生募集に関する比率含む）を示すデータの変化は本部がチェックして、アドバイスを受ける。会計監査の体制として、学校法人産業技術学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。今年度はホームページ上で情報公開ページを設定し、財務情報の公開を行っている。		3.0	3.0		
9.法令等の遵守	組織図より説明	9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りにより、教職員の法令遵守や設置基準の遵守に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。また監事による毎年の監査によりコンプライアンスの実施状況についてチェックしている。		3.0	3.0	各科の特性を活かした地域との連携に期待している。	自己点検・自己評価⇒学校関係者評価委員会での評価システムを継続し、課題に対してPDCAサイクルをしっかりと廻していく。
	ITリテラシー資料	9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了しており、教職員への啓蒙のための研修制度やその運営体制の整備に力を入れている。国際的な個人情報の認定規格を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。		3.0	3.0		
	本会資料	9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、毎年自己点検・自己評価についての方針、実施を開始し委員会を組織し運営している。また、学内における学則、規定の整備は常に行い最新の状況をもとに見直しを図っている。厚生労働省等の発行する学科自己点検表の活用によりそれぞれの学科運営状況を客観的にチェックし改善に役立てている。今後の新たな高等教育機関の制度化に関しての取り組みと準備を行っていく。		2.7	2.7		
	HP確認	9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか	自己点検自己評価結果をもとに重点課題について学校関係者評価委員と学校づくりの検討を行い更なる評価の向上に努めている。		2.7	2.7		
10.社会貢献	各種ボランティア紹介	10-47 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	学校施設は在校生の学習の場のみならず、恵庭市の長寿大学や高校の総合学習の場、小中学校のキャリア教育の場として広く活用していただいている。また、産・学・官・地域との連携は推進を常に心がけており、国内専門学校で始めて、野生鳥獣保護施設の指定を受け、野生鳥獣リハビリゲージを設置したり、犬を中心としたシェルター（しっぽの会）と連携し、飼育実習を実施した。またペット学科はトリマーコースでモデル犬登録によるトリミングを実施、恵庭市の委託を受けてペットマナー教室を実施した。		2.9	3.0	大変よい取組である。 近郊に住んでいながら恵庭に動物がいる学校があることを知らなかった。 犬のマナー教室等、地域の人達の皆の目に触れ理解が得られることは良い。 学校は教えるだけの機関ではなく、社会問題や環境問題にも率先して取り組んでいることが評価できる。 地域との協力を継続して欲しい。 実経験として地域と連携した実務実習の貢献活動はできないものか検討してほしい。	地域・企業・行政との連携強化を更に図り、継続的に社会貢献に寄与できるようにする。
		10-48 学生のボランティア活動を奨励、支援していいるか	授業の一環で地域のごみ清掃や募金活動、交通安全週間における協力等自治体に関連した活動や課外活動の一環としてイベントの補助要員やボランティア要員としての協力を行っている。また、胆振・江別・札幌動物愛護フェスティバル、恵庭市と連携しペットマナー教室の開催など積極的に参加、企画運営することで、動物と社会をつなぐ活動も学生とともに実施している。		3	3.0		
11　国際交流	海外研修・留学状況紹介と課題説明	11-49 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	各学科の専門性を考慮した海外研修が企画されているが、近年渡航費用の捻出が困難な学生が多く、研修実現に至らない学科がみられる。本年は動物看護師学科と動物自然学科合同でのシンガポールへ行き、アジア最大の動物園視察研修を行った。 学生が世界的視野を持った職業人を目指せるよう国際交流の場の環境を整備し、文化、宗教、人種の異なりや日本人としてのアイデンティティの大切さを考える機会として力を入れていきたい。		2.8	2.8	体験としては素晴らしいが、それが研修であるかという点について疑問が残る。 アジリティ世界大会、遠征にも学生参加ができた。 国際化を視野に入れ、外国の動物関係の仕事内容等の情報があるとよい。	より効果的な海外研修や教育環境の開発を計測する。
					2.8	**2.9**	評価者コメント	